

【十勝西部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！

【木造建築紹介】

十勝西部森林管理署の庁舎は、帯広事務所と十勝西部森林管理署の合同庁舎と



して平成17年3月に完成し、今年で築17年になりました。

構造・規模は、木造2階建て、延べ床面積約1000㎡で、一階は十勝西部森林管理署の執務室等、二階は帯広事務所の執務室と大会議室となっています。

構造材は、カラマツ大断面構造用集成材454本、約136㎡、内・外装材に約118㎡、合計約254㎡と、多くの木材が使用されています。

庁舎設計時のコンセプトは、「開かれた国有林」と「道東の顔」の2点について特徴付けるといふもので、次の4点について重点を置いた設計がされました。

一・住宅建設のモデル的な木造施設とする。

- 二・空間スペースを活用した開放型施設とする。
- 三・構造空間に大断面構造用集成材を効果的に使用する。
- 四・内外装等含め道東の顔ともいえるカラマツ材を活用する。



開放感のある執務室

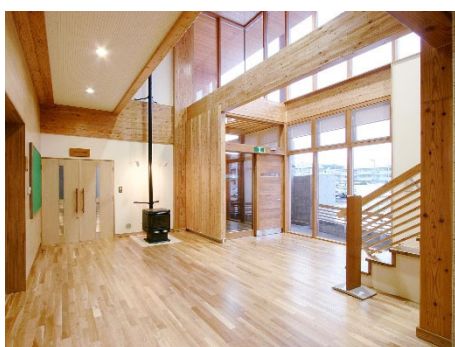
木造建築物の構造としては、木質二方向ラーメン構造(サミットHR工法)を採用しています。

柱・梁に鉄筋を貫通させ、エポキシ樹脂で固定させることにより、二方向ラーメンの剛接合を実現しています。筋交い(すじかい)、耐力壁を使用しないため4周に開口部が設けられ、開放感のある室内となっています。

す。

異形鉄筋を木材の内部に埋め込んでいるため、「めりこみ」に対し優れた効果を発揮し、接合金具が外部に露出しないため、耐震・塩害対策にも優れています。

正面エントランスは、開放的な空間を創造すること及び外壁として建物の美観の維持、耐風圧性、耐震性、機密性、遮音性などを考慮し、150㎡の木製カーテンウォールを採用し、天井にはカラマツ羽目板を使用しています。



窓が大きく明るいエントランス

床にはナラとアサダのフローリング、主要な室内のドアにはセンノキ化粧合板を使用、玄関ドア、木製窓

枠にはヤチダモ集成材を使っています。

また、バリアフリーに対応するため、正面玄関にスロープを設置し、エントランスにはエレベーター及びハンディキャップトイレが設置されています。

【我が署紹介】

十勝西部森林管理署は、北海道の十勝平野西部に位置し、帯広市、音更町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町の1市5町2村に広がる国有林約14万haを管轄しています。

管理面積のうち約35%は「日高山脈襟裳国定公園」に指定され、多くの登山者が良好な自然環境を求めて訪れています。平野部からも日高山脈の雄大な山岳景観を楽しむことができます。

また、管内には国の天然記念物にも指定されているシマフクロウも生息しており、生息環境の整備と生息地拡大へ向けた取組を行っています。